

少しずつふくらます

設計趣旨 (デザインコンセプト)⇒

既存のまちのインフラや社会環境がもつポテンシャルをふくらます

- フェリーターミナルとその周辺環境が潜在的にもっている可能性を丁寧に掘り起こし、それらを少しずつふくらます (拡張することによって、コストを抑えながら機能的でデザイン性に優れたターミナルと周辺環境を整備します。
- 元々ある暮らしや商業のポテンシャルを少しずつふくらますことによって、加えて島外からも活気を呼び込むことにより、まちに賑わいを生み出します。
- 大小さまざまな交流の場を用意し、そこに旅行者や移住者も加わって、既にある活動が少しずつふくらむことにより、新たな連携や協働の機会をつくり出します。

C フェリーターミナル前のT字路は、見通しを確保すると共にハンプ状のスクランブル交差点とし、歩行者の安全性をより高めます。

8:25~8:30の様子
(4月25日~10月31日)

A 立面を少し膨らます

フェリーターミナル2階と中町方面、つきやま広場、ポートプラザ方面を安全に楽しく繋ぐブリッジを掛けます。

C ウワバミ広場は、フェリーターミナル内の機能がふくらみ出ると共に利用者の滞留空間となります。

D 道路の湾曲と緩やかな起伏によって一種のポシネルフ (歩行者優先のコミュニティ道路) となり、車のスピードを下げます。

春にはオキタンポポの色やにおいに隠岐島を訪れた実感を感じられます。

D 水勾配程度の緩い勾配 (1/20~1/400) で出来た築山により、西郷公園へと続く安全な津波避難ルートを確認します。

エリア全体の機能配置図 (ゾーニング図) ⇒ 隠岐の歴史と文化を学習する

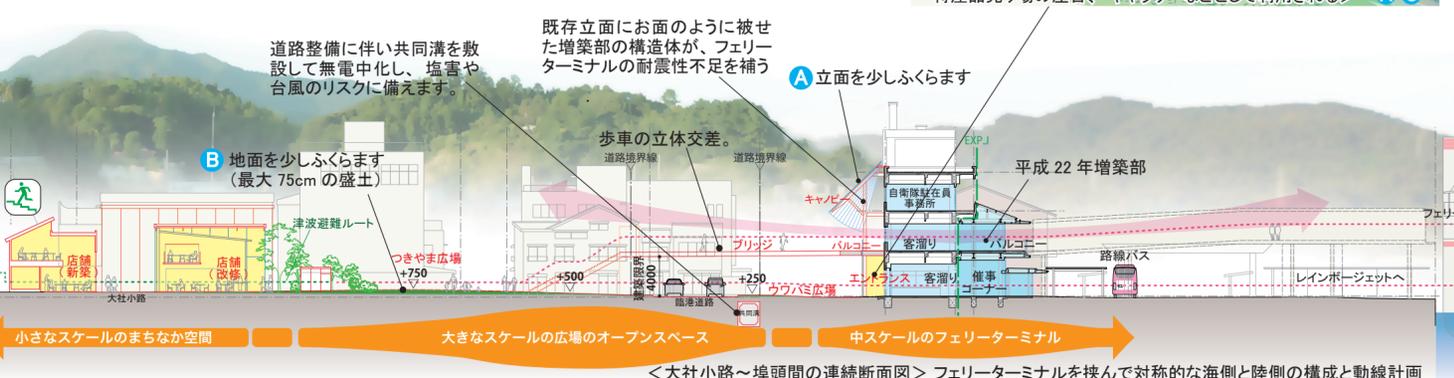
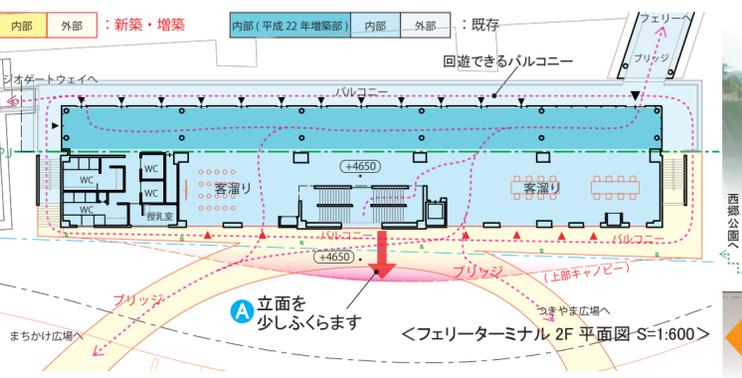
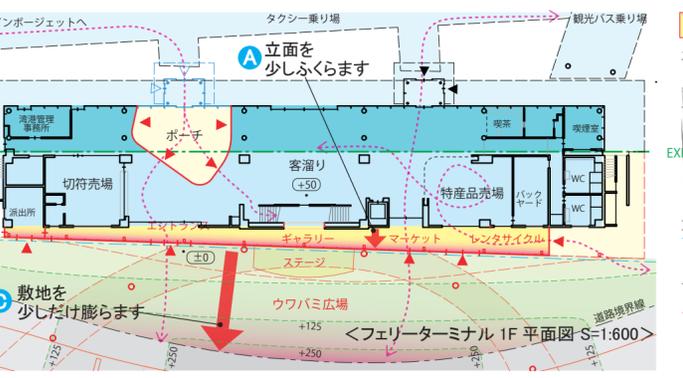


1 建築とインフラが少しふくらむことによって生まれる可能性

- A 立面を少しふくらます**
臨港道路沿いのわずかな敷地 (幅: 0.9m~3.1m) を利用して、フェリーターミナル1階を増築し、2、3階にはガラスのキャノピーを掛けて、まちの顔となる西側立面を修景します。
- B ローターリーを少しふくらます**
臨港道路を含むフェリーターミナル周りの車路を一種の「交通ロータリー」と見なし、それを北側へ少し拡張することによって周辺の自動車の流れを整理します。
- C 敷地を少しふくらます**
臨港道路の道路線形を少し西側に振って、フェリーターミナル前に広場をつくります。
- D 地面を少しふくらます**
「75cmの安心」。臨港道路と目貫通り入口付近との間を緩い尾根状に盛り土し (最大75cm程度)、西郷公園へと繋がる安全な津波避難ルートを整備します。

2 細長くふくらむ交通ロータリー

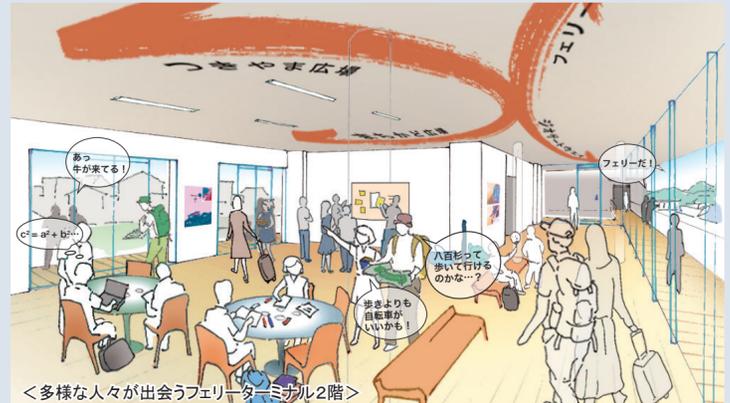
- ロータリー外側にあった一般駐車車をすべてロータリー内側に取り込み、完全な歩車分離を実現します。
- フェリーターミナル東側の駐車帯が伸びることに伴い、路線バスのバス停を設けることが可能になります。
- 島内各方面に向かう路線がロータリーに乗り入れることにより、集約された一箇所のバス停での安全で便利な乗り換えを実現します。
- 狭くて危険な目貫通りのバスの運行を中止することも視野に入れます。



3-1 多様な居場所をふくらませる多様な人々

交流機能に関する整備方針⇒

- 3つの広場からなる広いオープンスペース、既存街区の小さな空間、フェリーターミナル内の中くらいの空間という3種類の異なるスケールが、様々なアクティビティを柔軟に受け入れて、観光客と住民、子育て世代と高齢者、子どもと大人といった多様な人々が交流するきっかけをつくります。
- 親密なスケール感をもつ既存の街区は、住民同士、住民と旅行者や移住者との日常的な何気ない交流が生まれる場となることを目指します。
- つきやま広場は、しげさ踊りや週末の大きなイベントの開催から、平日には子どもを遊ばせながらお茶や食事を楽しむことも出来る、誰にでも開かれた屋外空間です。
- フェリー接岸時以外あまりひと気のないフェリーターミナル2階は、中高生もサードプレイス（学校でも自宅でもない場所）として気軽に利用可能な居心地の良い空間に改修します。120人程度の公的行事での使用も可能です。



<多様な人々が会おうフェリーターミナル2階>

3-2 集めてふくらむ商業空間

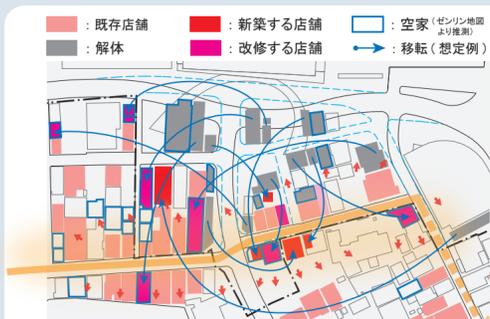
商業機能に関する整備方針⇒

- 移転補償が必要となる店舗は、出来る限り空家を改修活用するなどの方法で大社小路や目貫通り、まちかど広場周辺に集まってもらい、店舗の再配置によって新たな商業の軸（みち）の形成を促します。
- 島本来の暮らしが旅行者にとって最も魅力的なコンテンツであることを踏まえ、地域の暮らしを豊かにすることを最優先に考えた商業施設を誘致します。

ex. 地域の日常的な食文化を知ることが出来る、特産品が購入可能なマーケット

ex. クラフトビールの店やサウナなど地域の若者や移住者にとって魅力ある施設

- 移住者などが新規事業を始めるインセンティブとなる情緒ある街並みを維持しながら、徐々に周辺へと賑わいを伝播させて行きます。



<商業の軸(みち)に集約した賑わいを、改めて周辺へ伝播する>

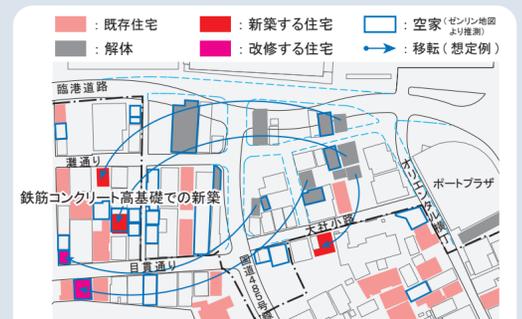


<一皮残った既存の街並みに、増改築による新しいデザインが加わった大社小路>

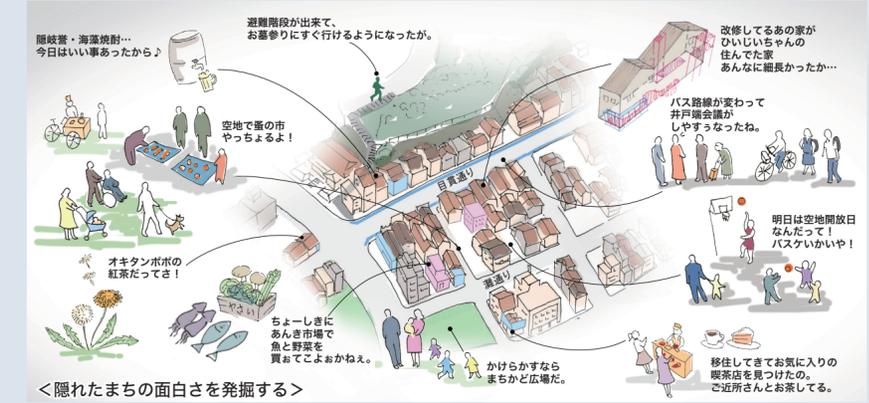
3-3 まちの魅力をつくらせる住空間

暮らし機能に関する整備方針⇒

- 隠れたまちの面白さを見つけ出し、地域の魅力をつくらせます。
- 伝統的な漁師町の街区構造が生む細長い敷地形状を生かした住居のあり方や、既存住宅の改修手法についても十分に検討し、移転補償が必要な住民には、空家も活用しながら出来る限りエリア近くに新たな住居を整備します。
- 津波や土石流に対する災害対策にも配慮して、従前よりも安全な場所への移転や、新築の場合には鉄筋コンクリート高基礎の採用などを促します。



<移転しても地域に住み続けることのできる仕組み>



<隠れたまちの面白さを発掘する>

4 ふくらみが重なり接点生まれる

各機能の連携を深めるための手法に対する提案⇒

- フェリーターミナルが交通、交流、商業、暮らしの各機能を束ねる結節点となって、多様な人々が日常的に頻りに利用する場所となります。
- 特に弓型のブリッジは、まちとターミナルを連続させると同時にまちのステージとして機能し、エリア全体の一体感を生み出します。
- 大社小路には、つきやま広場側からも通り抜けが出来るようにして、広場と商業の軸（みち）を自然な形で繋ぎます。
- エリア周辺の共通プラットフォームとなる website や情報システムを整備し、各機能が緩やかに連携出来るようにします。



<フェリーターミナルが結節点となり各機能の連携を深める>

5 まちの活力を束ねて賑わいをふくらませる

にぎわいを創出する手法などの提案⇒

- 既にある暮らしや商業のポテンシャルを生かし、本事業に伴う店舗や住宅の移転をむしろ好機と捉えて、エリア内とエリア周辺に効果的に再配置を行うことによって賑わいを生み出します。
- 日常的な活動から週末のイベントまでをマネジメントする地域活動団体の拠点をまちかど広場に面して配置し、広場およびエリア全体の活性化を図ります。
- 魅力ある空間こそが、魅力ある事業を呼びます。新規事業への参入や島外からも活気を呼び込むことによって、さらなる「賑わいの連鎖」を創出します。

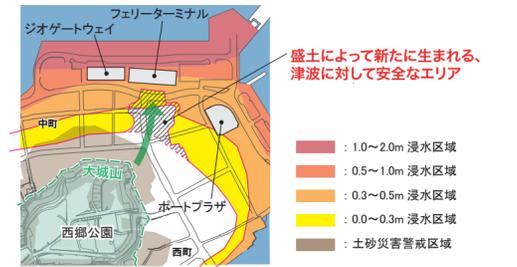


<賑わいの連鎖を創出する>

7 「みち・かわ・台地が繋がる」ための提案

その他まちづくりの基本理念の実現のために有効な機能などの提案⇒

- 大城山の緑の台地の「へり」を港湾エリアへと延ばすことによって、むしろその両側に広がる中町と西町の連携を深め、「みち・かわ・台地が繋がる」基本理念に資すると考えます。→D



<盛土によって新たに生まれる、津波に対して安全なエリア>

6 地域の担い手を育む段階的整備プロセス

整備する施設の利活用や運営に対する提案⇒

- 比較的同意が得やすい事業から段階的に整備に着手し、同時に場所の使い方を考えるワークショップなどを通じて、住民同士の新たな関係性や主体的な活動を生み出すきっかけを育みます。
- 初期には空家や駐車場を使って仮設的な運用やイベントなどを実施し、地域の担い手候補を育てることで事業後半の安定的な活動に繋がります。
- エリアマネジメントの観点から地域内にNPOやワーキンググループを立ち上げ、小規模事業者の発掘や育成を行い、このエリアが、地域の顔がはっきり見える新たな島の玄関口となることを目指します。

phase1



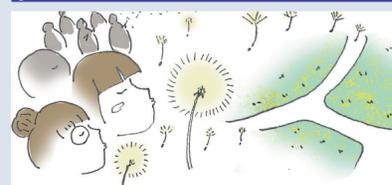
地域の担い手候補による、空家や駐車場を使った仮設的なイベント。

phase2



まちの顔となるフェリーターミナルの新しい外観。まちかど広場には地域の担い手の拠点施設が開設。

phase3



固有種であるオキタンポポの綿毛を吹いて種をまき、草地を造成するイベント。

phase4



「牧畑」のような草地を主体としたつきやま広場でつくる人々。



フェリーターミナルから臨港道路への車路出口を北側へ移設。→B



道路線形の変更、まちかど広場とウワバミ広場の整備。既存ブリッジを撤去し、フェリーターミナルの立面を修景。→A C



町道西郷139,140号線の廃止。新しいブリッジの建設に向けて、つきやま広場の整備に着手。→D



つきやま広場完成。

■：移転に伴う新築 ■：移転に伴う改修 ■：解体 □：空家(センシブル地画より推測) <段階的整備のイメージ>

- 隠岐病院に加えて新たにフェリーターミナルを、ロータリーをもった2大交通結節点と位置づけます。→B
- 通過交通や路線バスを整備された広幅員の道路に集約することにより、エリア周辺に安全で回遊性の高い「みち」=歩行者動線ネットワークを整備します。→B



バス路線のルート変更により安全で回遊性の高い歩行者動線ネットワークを整備 <バス路線の再編で広がるまちづくり>